

令和7年度

座間市姉妹都市中・高校生交流事業
事業報告書

座間市



目次

	頁
1. 座間市長 挨拶	1
2. 座間市スマーナ交流委員会委員長 挨拶	2
3. 行程表	3
4. 国際親善大使 報告書	4
5. 随行員ホスト 報告書	38
6. Photo Album	46



御挨拶



座間市長 佐藤 弥斗
Mayor of Zama City
Mito Sato

このたび、私達の姉妹都市であるアメリカ合衆国テネシー州スマーナ市から中・高校生15人、大人の随員6人の計21人の訪問団をお迎えすることができ、大変嬉しく思います。平成3年11月にスマーナ市と姉妹都市提携を結んだことを契機に、おおよそ3年ごとに実施してきたスマーナ市からの受入は、今回で9回目です。

平成9年から「派遣・受入・休止」のサイクルで実施していたスマーナ市との姉妹都市中・高校生交流事業は、平成28年からは、両市の青少年の将来に資する事業として更に発展させていくために、教育委員会の英語指導や生徒指導の下、1年ごとに「研修・派遣・受入」を行う3年ワンサイクルとし、本事業に参加する中・高校生に「座間市国際親善大使」の冠を付け、市民の代表であることを定義づけました。今回、受入をした国際親善大使3期生については、令和5年に研修、令和6年にスマーナ市への派遣をいたしました。

今回の受入は、長年にわたる友好の絆をさらに深める大変意義深い機会となりました。

訪問団の皆様には、本市の文化や歴史、地域の魅力を肌で感じていただくと共に、多くの市民との交流を通じて、温かな人と人との繋がりを築いていただきました。中でも、国際親善大使やその他市内の御家庭が、ホストファミリーとして訪問団を受け入れてくださったことは、交流をより豊かで実りあるものにしてくださいました。各御家庭で日常生活を共にする中で、食事や生活習慣、家族の在り方などを自然な形で体験していただくことができ、日本文化への理解を深めていただけたことと思います。

言葉や文化の違いを越えて、若い世代が直接触れ合い、互いを理解し尊重し合う姿は、私達にとっても大きな喜びであり、今後の国際交流の可能性を広げるものであったと感じます。

また、受入に際しては、多くの市民の皆様や関係機関の御協力を賜りながら、様々な行事や見学の機会を設けることができましたことに、心より感謝申し上げます。皆様のお力添えにより、訪問団の皆様にとって、今回の滞在が心に残る特別な体験となったことと存じます。

今後も、こうした国際交流を通じて、若い世代が広い視野と多様な価値観を持ち、世界へと羽ばたいていけるような環境づくりに努めてまいります。スマーナ市との友好の絆がさらに深まり、未永く続いていくことを心より願っております。

最後に、今回の受入に御尽力いただいた全ての皆様に改めて深く感謝申し上げます。



御挨拶



座間市スマーナ交流委員会委員長

木村 功

Zama Smyrna International Exchange Committee

Chairperson Isao Kimura

海を越えた遙か彼方、アメリカ・テネシー州スマーナ市から、21人の友がやって来ました。暑い季節に、熱い友情が育まれる時のスタートです。

姉妹都市との中高生交流事業は、今回で9回目の訪日となります。30年余にわたり育まれてきた本事業は、その持続力と充実した内容において、他市にも誇れるものと確信しています。

本事業が継続できているのは、ひとえに市民、行政、議会の皆様の御理解と、交流に際して献身的に受け入れてくださるホストファミリーの皆様、そして関係者の皆様の温かい御支援の賜物です。関係する一人として、心から感謝申し上げます。

今回の交流では、特筆すべき出来事がありました。随行者の一人が、かつて生徒として本事業に参加していた方であり、また、今回のホストファミリーの中にも、かつて生徒として参加した御家族がいらっしゃいました。まさに、本事業が世代を超えて繋がっていることを象徴する感慨深い出来事です。

このように、新たな若い力の連鎖から新しい発想が生まれ、さらなる発展の機会となることを期待しています。皆様には、今後とも変わらぬ御協力と御支援を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。



令和7年度 座間市姉妹都市中・高校生交流事業 行程表

日付	曜日	集合時間	解散時間	予定	場所	備考
7/20	日			空港到着(15:55)後、海老名へ	羽田空港第3ターミナル→宿泊先のレンブランドホテル海老名	アメリカン航空175
7/21	月	10:30	13:00	(11:00～13:00) ウェルカムレセプション	みんなのやまちゃん (座間市役所ふれあい会館1階)	
7/22	火	9:00	17:00	1.スクラップブックキング 2.学校体験 3.スポーツアクティビティ	1.サニーブレイス座間3階 研修室 2.聖セシリア女子中学校・高等学校 3.サニーブレイス座間3階 多目的室	
7/23	水	9:00	17:00	1.ラジオ体操 2.学校体験 3.交流アクティビティ	1.サニーブレイス座間3階 多目的室 2.聖セシリア女子中学校・高等学校 3.サニーブレイス座間3階 多目的室	
7/24	木	7:50	18:00	東京案内	国立科学博物館、浅草寺、仲見世通り、東京スカイツリー、 車窓見学(東京タワー、渋谷スクランブル交差点等)	
7/25	金	9:00	17:00	1.キャンプ座間見学 2.ダイソー妻田店 3.日本文化体験【書道・入谷歌舞伎】	1.キャンプ座間 2.ダイソー妻田店 3.サニーブレイス座間3階 研修室・多目的室	
7/26	土			ホストファミリーと過ごす日		
7/27	日			ホストファミリーと過ごす日		
7/28	月	8:20	18:00	箱根小涌園ユネッサン	箱根小涌園ユネッサン	
7/29	火	8:45	17:00	1.市役所見学 2.市内ツアー 3.消防署見学 4.日本文化体験【和太鼓】	1.座間市役所 2.座間市役所、伊双寝子社、芹沢公園、イオンモール座間 3.消防署 4.キャンプ座間	
7/30	水	7:50	18:00	江の島、鎌倉案内	新江ノ島水族館、鎌倉大仏殿高徳院、*小町通り、*車窓見 学(赤レンガパーク、ランドマークタワー)	※津波警報発令により、ダイソー 妻田店・MEGADON、キホーテ UNY座間店に変更
7/31	木	9:00	19:00	1.日本文化体験【華道】 2.日産ヘリテージコレクション見学 3.日本文化体験【着付け】 4.お祭り 5.花火(手持ち花火)	1.サニーブレイス座間3階 研修室 2.日産ヘリテージコレクション 3.サニーブレイス座間2階 会議室 4.鈴鹿明神社 5.相模川河川敷(座架依橋付近)	
8/1	金	17:30	20:00	(18:00～20:00) フェアウェルパーティー	みんなのやまちゃん (座間市役所ふれあい会館1階)	
8/2	土	10:30		帰国(16:30離陸)	座間市役所→羽田空港第3ターミナル	アメリカン航空176

「色々なことを知れた二週間」

国際親善大使

1 スマーナ市生徒との一番の思い出

僕の一番の思い出は、「よみうりランド」に連れて行ったことです。特に、一緒にウォータースライダーを滑ったのが楽しかったです。その他にも、飛込台でバックスピンをしながら飛び込んだり、お化け屋敷に入ったりしました。絶叫系はあまり乗らなかったけど、ジェットコースターには乗ってくれて、「とても楽しかった!」と言ってくれたので嬉しかったです。



2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと 違い：

僕が感じたことは、時間感覚の違いです。僕は3年間ベトナムなどの日本以外のアジアの国々にいたので、ヨーロッパやアメリカなどの先進国では「時間を守ること」がとても大切で、逆にアジアの一部では「少しくらい遅れても気にしない」という考え方があると思っていました。だから、最初は

アメリカも日本と似て時間を守る大切さにされているのかなと思っていましたが、実際にはそうでもなく、生活習慣の違いによるものなのかな、と受け入れるようにしました。

共通点：

ゲームが好きで一緒にプレイしたり、遊園地に行ったり、日本の友達とバスケットをしたりするなど、一緒に過ごす中で、どんな文化でも「嬉しい」「楽しい」「悔しい」などの感情は同じだから、言葉や風習が違っていても「共感」できることはたくさんあるのだなと感じました。

それと、日本の食べ物よりも、ピザやステーキなど、自分が知っている味の食べ物を喜んで食べていたことです。僕も外国のにおいとか食べ物に慣れるのにすごく時間がかかったので、その気持ちはすごく理解できました。



3 この事業を今後もより良く継続していくために

活動を振りかえって、どのアクティビティやコミュニケーションがうまくいったか、どこを改善すればよりよくなるかを考えて、次回の活動に活かすことが大切だと思います。また、多くの人に興味をもってもらうために、この活動の楽しさを伝えていくのも必要だと思いました。

4 次の国際親善大使へのメッセージ

僕は途中から大使に任命されたから、英語にも自信がなかったりして、心配なことが色々あったけれど、自信をもって話してみることが大切だと思いました。また、課題提出も多かったから、やらなければいけないことは早めにやっておくとよいと思いました。受入では、ペアの人と意見や習慣が合わないと感じることがあるかもしれないけど、その時は「日本とアメリカでは文化が違うから」と受け止めて、それでも我慢するのはよくないから、だめなことや嫌なことははっきりと伝えることが大事だと思いました。

このように、大変なこともたくさんあると思うけど、英語で会話したり、一緒にゲームをしたりするなど、交流をする中で分かることや得られることがたくさんあると思います。だから、国際親善大使をやろうか迷っているなら、ぜひやってほしいと思います。



「2週間で得た挑戦の経験」

国際親善大使

1 スマーナ市生徒との一番の思い出

最も印象に残っているのは、みんなと一緒に過ごした週末です。この週末でスマーナ生徒との関係が深まり、とても楽しくて時間が経つのが早く感じられました。

土曜日は複数のペアとその家族と遊園地を訪れました。遊園地では、たくさんのアトラクションに乗ったり、お揃いのサングラスを買ったりして一日を思い切り楽しむことができました。気がつくと辺りは暗くなっていて、帰りの車でペアの子が好きなアーティストの曲を一緒に聴きながら帰ったのも大切な思い出の一つです。



日曜日の午前中は、私のペアの子と、私たちと仲の良いもう一組のペアと4人で渋谷を観光し、ポケモンセンターを訪れました。ペアの子たちはポケモンが大好きで、とても喜んでくれました。夜はさらにもう一組のペアが加わり、6人でBBQをしました。食後には、アメリカでよく遊ばれているというトランプのゲームを教えてもらい、みんなで大いに盛り上がりました。

こうして過ごした二日間は、スマーナ生徒との絆を深めるかけがえのない思い出となりました。



2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

文化の違いとして、あいさつは言葉だけではなく、ハイタッチやグータッチなど体を使って表すものも多く、日本のあいさつとは少し違うと感じました。一方で、趣味の点では共通点も多く、特にバスケットボールの話題で盛り上がることは嬉しかったです。文化が違っていても、好きなことを通じてすぐに仲良くなれることを実感しました。

3 この事業を今後もより良く継続していくために

改善してほしいところは特になく、3年1サイクルという期間も、学びや交流のペースがちょうどよく、とても満足しています。

4 次の国際親善大使へのメッセージ

私にとって、この事業での経験はかけがえのないものになりました。スマーナ生徒との関わりや出来事はもちろんですが、同じ座間生徒との交流も、なかなか体験できるものではないと思います。こうして一緒に英語を学び、外国の方と一生懸命コミュニケーションを取ろうと試行錯誤しながら挑戦することは大変でしたが、みんなで乗り越えたことで、自分自身の成長にもつながりました。

次の大使のみなさんも、たくさん挑戦して、かけがえのない時間を作ってください。



「スマーナ生徒の受入を終えて」

国際親善大使



1 スマーナ生徒との一番の思い出

一緒にクレーンゲームをしたことです。景品がなかなか取れなくて二人で相談しました。僕がアドバイスして景品が取れ、ホストスチューデントがとても嬉しそうにしているのを見て僕も嬉しくなり、仲が深まりました。

2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

僕が受入で感じた文化の違いは家での過ごし方です。例えば、玄関で靴を脱がなかったり、日本では夜にお風呂に入るのに僕のホストスチューデントの子は朝にお風呂に入っていたり、歯を磨くタイミングや食事の前の挨拶なども日本とは違いました。ただ、会話の中に挟むジョークやゲームが好きなことなどの共通点もありました。

3 この事業を今後もより良く継続していくために

個人的には、ユネッサンに一日中いるのではなく箱根の観光をしたいと思いました。また、もう少し早くプログラムの内容が終わるように設定して、ホストスチューデントを家族といろんなところに連れていけたら良いなと思いました。



4 次の国際親善大使へのメッセージ

国際親善大使ではいろんなことを学ぶことができます。例えば、アメリカに行って現地の人と英語を使ってお話しすることで本物の英語を聞くことができ、文化の違いもよく知ることができます。他にも、アメリカに行く前には1年間研修があり、英語や座間についての勉強をして派遣に備えるので、自分の住む座間についても改めてよく知ることができます。それに、アメリカには一人ではなく随行員の方や他の親善大使の子たちと行くので悩み事なども相談することができます。他では経験できないこれからの生かせる希少な機会です。頑張ってアメリカの子と仲良くして楽しい3年間を過ごしてください。



「スマーナ受入で学んだこと」

国際親善大使



1 スマーナ生徒との一番の思い出

今年の夏、私の家にスマーナからの生徒をお迎えしました。特に印象的な思い出は、東京観光や週末にサンリオピューロランドに行ったことなどです。

東京観光では、ペアの子は浅草限定のキーホルダーを買ったり、アイスを食べ歩きたり、会話などもとても盛り上がりました。また、週末にサンリオピューロランドに行った際には、朝早くから初めての電車に乗ったり、ペアの子の好きなキャラクターに会えたりとすごく楽しんでもらえました。

相手の生徒も日本に来る前から日本のことを調べたりして、日本に興味を持っていたようで家でも質問などしてくれて、日本の紹介をちゃんと出来たかと思います。ドン・キホーテで買い物をした時には私にちょっとしたプレゼントも買ってくれてお互い2週間笑顔でいられました。

普段の生活でも見られない家族の笑顔があふれ、言葉の壁もあまりなく、私にとってとても楽しい一番の思い出になりました。

2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

交流を通して文化や考え方に少し違いを感じました。例えば、アメリカでは意見をはっきり言うのが普通なのかなと思った点です。食事の習慣や家庭での過ごし方も日本と少し違うなと感じました。

一方で、家族や友達を大切にする気持ちは共通しているなと思います。私のペアの子は「どこどこに行ったよ」など家族に電話やメッセージを送っていて、私も去年アメリカに行った時、家族に写真を送っていました。友達に対しても、日本のお土産を買ってあげていたりして、家族や友達を大切にしていることが共通点だと考えました。ペアの子に私の友達を紹介した時熱心に話を聞いてくれて、聞き終わった後にペアの子の友達を紹介してくれました。お互いに学び合えることが多かったなと思いました。



3 この事業を今後もより良く継続していくために

この事業は国際理解を深める大切な取り組みだと思えました。今後さらに良くしていくためにはもっと交流を深めたり、学校などで活動内容の紹介をしたり、英語を学び合う時間を作ったり、地域の方などと交流したりするのもいいかなと思えました。今やっているようにSNSで体験を発信したりすることも大切かなと思います。

色んなところで事業を知ってもらうことで、市民の皆さんにも協力していただいて、この事業がずっと受け継がれて長く続けられることを願っています。

4 次の国際親善大使へのメッセージ

最初は緊張することやメンバーのみんなと仲良くできるかななど不安に思うこともあると思います。私もそうでした。

ですが、心配ありません。みんな優しくて話しやすくてすぐに緊張も解けました。さらに、スマーナの生徒の方もとてもフレンドリーでみんな優しく接してくれます。自分から積極的に話しかけることでもっと打ち解けることが出来ると思います。

この事業は日本の文化を伝えることだけでなく、相手の文化も学べるすごく良い事業です。もし伝わらないことがあっても最後まで伝える努力をすれば伝わります。ジェスチャーをしたり、笑顔でいたり、大切なのは楽しむ気持ちと相手を思いやり向き合うことです。この経験は一生の宝物になるのでぜひ挑戦してみてください。



「日本で一緒に過ごしてみて」

国際親善大使

1 スマーナ生徒との一番の思い出

私はペアの子との思い出の中で、特に2日間の学校体験の印象が強く残っています。その子は思ったよりもシャイで、日本に来てすぐの頃は、家族ともあまり打ち解けられませんでした。そんなまだお互い緊張していた時にあったのが、この学校体験だったのです。

この学校体験の場を設けてくださった学校には、英語劇の部活動があり、学校の案内も英語が中心でした。そのため、ペアの子は割とリラックスして活動している様子で、私も安心しました。また、部活動体験でやらせて



いただいた英語劇や、昼食の時間を通して自然と会話が増えた気がします。学校の方や他グループの子と取り組むことも多かったため、まだ再会してすぐの私にはとても心強く感じました。私自身、他の学校にお邪魔して何かをするというのは初めての経験だったため、ペアの子と一緒に充実した2日間を送れたと思います。

2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

文化の違いでいうと、ペアの子は絶対に朝にシャワーに入っていることに驚きました。スマーナに行ったときもそうだったのですが、日中どんなに動いて汗をかいても、お風呂は次の日でいいと言っていました。他のペアだと、お風呂に入らない日もあったそうで、そのような衛生概念の違いには正直驚きました。

また、これは文化というかペアの子自らが言っていたことですが、日本の食べ物はすぐにお腹にたまるそうです。私のペアの子はご飯や麺類を食べることもあったのですが、ある時「日本食はもっと食べたいけれどすぐにおなかがいっぱいになってしまう」と言っていました。私にはそのように感じたことがなかったため、主食がパンやパスタのアメリカとの違いだなと思いました。

ここまでは違いに関してあげていましたが、もちろん共通点もありました。例えば、彼女は私の家に来たとき、父、母、妹、私とそれぞれにプレゼントを用意してくれ



ていました。さらに、受入期間が終わり帰って行ってしまった後、手紙やお土産を部屋に残してくれました。お土産をたくさん持ってきてくれたのもうれしかったですし、なにより日本の「おもてなし」のような考え方は、ちゃんとアメリカにもあるのだなと感じさせてくれた出来事です。

3 この事業を今後もより良く継続していくために

今後もこのようにホームステイをするのなら、異国の地に行ったとしてもしっかりマナーを守れる人材を派遣するべきだと思います。普通に観光するのなら誰だってはしゃぎたくなります。ですが、この事業は単なる旅行ではなく、両市の交流やきずなを深めるためにあります。そうになると、いざホームステイ、となったらまずはその国の文化や暮らしを学ぼう、と誰もが考えるはずですが、そのためには、まずはマナーや周りに合わせた行動ができないと、意味がありません。落としたりごみは捨てる、人の話はしっかり聞く、公共の場では騒がないなど、当たり前ができてこそ、本当に価値のある事業になっていくと思います。

4 次の国際親善大使へのメッセージ

3年サイクル、月に約1回の研修、2週間のホームステイ。文面だけ見たら大変そうに見えますね。確かにやることはたくさんあります。

ですが、この事業を経験すれば、それ以上に価値のある思いや経験を得られます。きっと自分の外国に対する考え方だって変わります。最初は相手が何を言っているかわからなくても、一生懸命理解しようとするれば、きっとそれは伝わるはずですが、目の前にあるチャンスを無駄にせず、ぜひ自分の視野を広げる第一歩にしてください。



「親善大使を通し学んだこと」

国際親善大使

1 スマーナ生徒との一番の思い出

スマーナスチューデントとの一番の思い出は土曜日に行った富士急ハイランドです

理由は、日本に来るまでに連絡している中で、一番行きたいと言っていたところに連れて行ってあげることができたからです。2人で話す機会は平日よりも多く、たくさん話すことができました。特に、待ち時間に2人でたくさん話すことができたのですが、昨年と同じ感じで楽しく話す事ができてとても嬉しかったです。

2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

今回はたくさんの相違点を感じるがありました。一番大きく感じた違いは生活の仕方です。部屋の温度がものすごく低かったり、シャワーを浴びるのが朝だったり、食べる前にお祈りをしていたり、生活の仕方が日本人とは大きく違うなと感じました。また、レディーファースト文化が浸透しているためとても紳士的で、そこでも文化の違いを感じました。

共通点は、家族や友だちを大切にしていることや、天気や季節の話をする事です。スマーナスチューデントの人たちは、定期的に友だちや家族に連絡していて、家族や友達を大切にすることは変わらないのだなと思いました。また、日本もアメリカも「今日は暑いねー」「It's so hot today!」などと会話の入り口に天気の話をする事が多いのが共通点だと思いました。



3 この事業を今後もより良く継続していくために

今後もこの事業をより良く継続していくためにはお互いを知りたいと思うこと、そして、楽しむことを忘れないで活動することだと思います。この事業を楽しんでやることで、相手のことをもっと知ろうと思ったりして、今後もこのような友好的な関係が築けるのではないかなと思います。また、継続的に交流して、この関係を途切らせずに継続していくことも大事だと思います。

4 次の国際親善大使へのメッセージ

私は今年もこの活動を続けていて良かったなと思っています。最初は緊張していたし、自分ができるのかなと思っていることが多かったけど、自分に自信を持つことと勇気を出すことで最高の体験ができました。なので、迷っているなら勇気をもって一步踏み出してほしいなと思います。そして、今まで以上に挑戦し、仲間と一緒に最高の思い出を作ってほしいです。

応援しています!!頑張ってください!!



「一生モノのつながり」

国際親善大使

1 スマーナ生徒との一番の思い出

最も印象に残っているのは、フェアウェルパーティーの後、ホストスチューデントとお互いについて語り合ったことです。アメリカでの思い出やもう一度訪れてみたい場所など、気持ちを伝え合っていて絆が深まった瞬間でもありました。特に、相手が「私はもっと日本語を勉強するから、次会った時、もっと語り合いたいね。一生友達でいよう。」とハグしながら伝えてくれた時が忘れられないです。



2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

前回、アメリカでホームステイした際も感じた事ではありますが、アメリカでは「思った事は、ハッキリ言葉や態度で表す。」という姿勢の人が多いです。こちらの気遣いが空回りしたりする場面も幾度かありました。しかし、相手はしてもらったことをきちんと覚えていて、感謝の気持ちを忘れず接してくれました。実際、私がホームステイした当初はホストスチューデントとの仲が深まらず、文化の違いに困惑することもありました。ですが、最終的には互いに文化の違いを受け入れ、軽口を叩ける仲まで発展しました。

コミュニケーションの取り方は違えど、互いを思いやる姿勢は共通しており、それが最終的には大きな信頼につながると感じました。

3 この事業を今後もより良く継続していくために

この事業に対する意識を自分なりに考えていくことが必要不可欠であると感じます。自分がどのように成長したいか、そのためには何が大切か。それを言葉にして、この事業の目的と照らし合わせる。また、この事業の実現に至っては、沢山の人が関わり支えてくれているので、その人達への感謝を忘れないようにしたいです。



4 次の国際親善大使へのメッセージ

海外の人と交流、と聞くと、遠い世界のように感じられます。しかし、いざ一歩踏み出してみれば自由で温かい場所が待っています。スマーナ市に一生の友達ができるし、互いの家は「第二の家」。また、尊敬できる大人、信頼できる仲間と出会えて、異文化交流にとどまらず非常に実りある経験になります。少しでも興味があるのなら、失敗を恐れず、挑戦してみてください。そして、与えられた機会を逃さず、自身の成長に繋げるきっかけにしてほしいです。

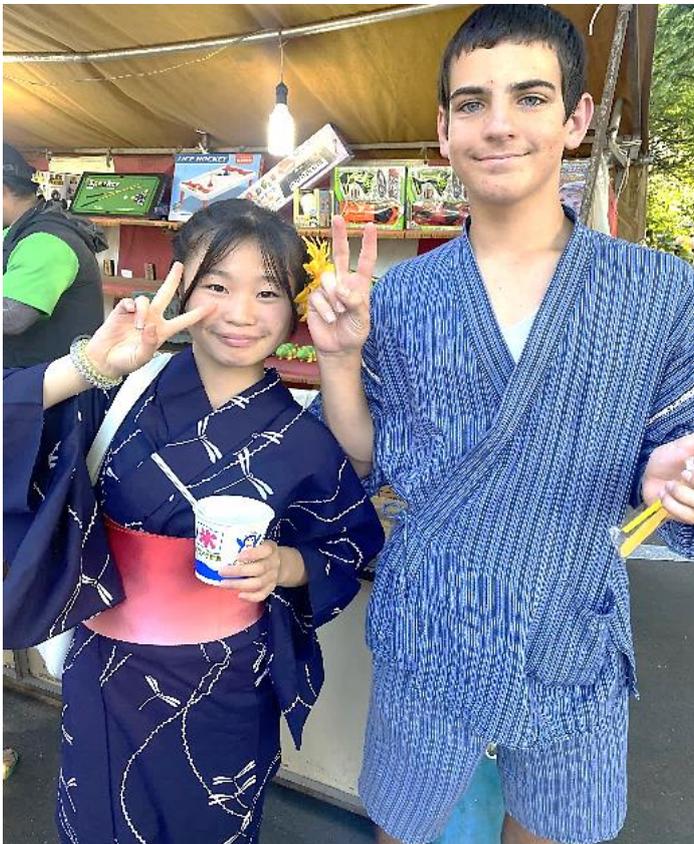


「国際親善大使になって」

国際親善大使

1 スマーナ生徒との一番の思い出

一番の思い出は週末に行った遊園地です。いくつかの家族と一緒に行きました。ジェットコースターにたくさん乗って言葉の壁を破って全力で楽しむことが出来ました。待ち時間には手を使ったゲームをしたりして、英語が話せないから仲良くなれないなどということはなく、本当に時間を忘れて楽しむことが出来ました。



2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

スマーナスチューデントはガチャガチャやUFOキャッチャーにすごくお金を使っていたり、気に入った物は割とたくさんリピートして買ったりしていました。他にも、スマーナスチューデントはコミュニケーションを積極的に行っていました。夜ご飯の時に今日あった事を写真も見せながら家族に話していました。また、日本ならではの、だしの味はアメリカには全くないそうです。

3 この事業を今後もより良く継続していくために

この事業をより良くするためには、いろんな人の力が必要だから、もっと知ってもらう必要があると思いました。そのために今まで以上に活動報告会の質を高めたり、ポスターをもっと掲示したりしたらいいと思います。

4 次の国際親善大使へのメッセージ

私は親善大使になって、部活と勉強と親善大使の並立が大変だったけど、それ以上にいい経験になったし自分も大きく成長することが出来ました。

特に私の中で一番変わったと思ったことは、大勢の人の前に立っても緊張しなくなったことです。前まではクラスの前で発表するのも緊張して恥ずかしかったけど、この親善大使を通していろんなところで人の前に立って発表をする機会が増えて、いつの間にか恥ずかしいという気持ちから、聞く人にもっと伝わって欲しいと思えるまでに成長しました。

他にも、はじめましての状態から研修や派遣を通して他の親善大使の人達と仲を深めることが出来て、初対面の人とでも積極的に関わろうと思えるようになりました。

もし親善大使をやってみようかと迷っている人がいたらぜひやってみてください。大変な分、大きく成長することが出来ます。



「やってみないと分からない」

国際親善大使



1 スマーナ生徒との一番の思い出

私はペアの子と過ごした週末が1番の思い出です。ペアの子が行きたいと言っていた山梨の牧場に行きました。日本に来てずっと緊張しているように見えたので、本当に楽しそうにしているところを見て連れて行ってとてもよかったですと思えました。私は自分から牧場に行こうとは普段は考えないので、私にとっても貴重な体験になりました。

2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

文化の違いについては、日常的に食べるものが違うので、ペアの子の好きな食べ物を探すのが大変でした。

3 この事業を今後もより良く継続していくために

言語の壁や文化の壁があるからと距離を置かずに、理解しようと前向きに取り組むことが大切だと思います。「一緒に」たくさんの経験や体験をする事で、目に見えない壁はいつの間にか壊れていて、仲良くなれていると思います。今後も努力を怠らずに頑張っていくことが大切だと思います。



4 次の国際親善大使へのメッセージ

私たちにも個性や性格がある様に、スマーナ市にも色々な人がいます。楽しいだけではないことも沢山あります。ですが、振り返ってみた時に「やって良かった」「楽しかった」と、思える事業です。始めるには勇気がいると思いますが、親善大使は15人。1人ではありません。困ったらお互いに助け合い、みんなで頑張ってください。



「私に勇気と自信を与えてくれた経験」

国際親善大使

1 スマーナ生徒との一番の思い出

今回のプログラムで、私はスマーナの生徒と一緒に過ごす中で、多くのことを学びました。最初の頃は、英語がなかなか伝わらず、とても苦労しました。特にホストスチューデントは、私の英語を理解してくれないことが多く、質問しても返事が「Yes」だけのこともありました。そのたびに「私の英語が間違っているのかな」と不安になり、伝えたいことが伝わらないもどかしさから、とても寂しい気持ちになることもありました。また、名前を呼んでも反応がなかったりして、心の距離を強く感じることもありました。



けれども、私は諦めませんでした。翻訳機を使ったり、英語が得意な友達に助けってもらったりしても、最初はなかなか自分の思いが通じませんでした。それでも、私は自分の気持ちを直接伝えることを諦めず、時には意見がぶつかることもありましたが、さらに、簡単な言葉でも勇気を出して、自分の思っていることを何度も正直に伝えるようにしました。たとえば、日常の出来事や自分の好きなこと、学校での話など、小さなことから話を始めることで、少しずつ会話のきっかけを作りました。すると、次第に相手も私の言葉に耳を傾けてくれるようになり、笑顔で答えてくれることが増え、話す時間も自然と長くなっていきました。

そして、最後の日には、私たちはとても仲良くなり、別れのときには一緒に涙を流してしまいました。最初は心の距離があった相手と、ここまで強い絆を結べるとは思っていませんでした。この経験を通して、たとえ言葉がうまく通じなくても諦めずに挑戦することの大切さ、そして自分の思いを正直に伝えることの重要性を深く学びました。

大変なことも多く、心が折れそうになる瞬間もありましたが、それ以上に得られたものは大きく、この経験は、私にとってかけがえのない思い出となりました。そして、この経験は、今後の自分の生活や学び、さらには新しい人と出会うときにも大きな自信と勇気を与えてくれる宝物になりました。

2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

・食文化

これは去年のホームステイ時にも体感したのですが、とにかく全てが大きいです。アメリカのハンバーガーは自分の顔と同じくらいの大きさでした。それに比べて日本のハンバーガーは小さいので、スマーナ生徒は日本のハンバーガーを見て「日本のハンバーガーは小さい。手より小さいとハンバーガーじゃない」と言っていました（笑）

・家の中に土足で上がる

初めて私の家に来た時、ペアの子は靴を脱がずに家の中に上がろうとしました。

・レディーファーストの文化

家や車のドアを開けてくれたり、椅子を引いて座らせてくれたりするなど、細かい気配りを見せてくれました。また、私のペアではない生徒も、私が持っていた商品について「これ買ってあげるよ」と言ってくれることがあり、その優しさにとても感動しました。

・トイレについて

日本のトイレの便利さにスマーナ生徒は驚いていました。まず、ウォシュレットの使い方が分からないこと、便座が温かいことに驚いていました。これは私も去年のホームステイ時に体験し、違いを感じたことです。また、アメリカではトイレとバスルームが同じ場所にあるため、どこで着替えればよいのか分からないと言っていました。

・一つ一つの場所の距離

私がアメリカにホームステイした時、学校まで車で30分ほどかかり、高速道路を使わないと着けませんでした。しかし日本では、車を使わず徒歩で通える場所が多く、便利だと感じました。



・宗教について

スマーナ生徒の多くはキリスト教を信仰しており、私のペアの子も信仰していました。キリスト教徒は食事の前にお祈りをしてから食べるそうです。ここに、日本人の「いただきます」の習慣と共通点を感じました。食材や作ってくれた人への感謝を伝えるという点で、両国に似た考え方があると思います。

・人の優しさ

スマーナ生徒は、座間の人とはとても優しいと言ってくれました。私がスマーナに行った時も、多くの人が親切で温かく接してくれました。今回の受入でも、スマーナの随行員の方々にたくさん助けられました。このことから、座間の人もスマーナの人たちも、とても温厚で優しいという共通点があるのではないかと感じました。

3 この事業を今後もより良く継続していくために

この事業を今後もより継続していくためには、スマーナの人と日本の人がさらに多くの活動や体験を共にできる時間を増やすこと、そしてこの活動について、より多くの人に知ってもらうことが大切だと感じます。例えば、共同での文化体験に座間市内に住んでいる人もボランティアとして参加してもらい、交流の幅を広げることが考えられます。また、より多くの人にこの活動を知ってもらうために、座間市民に向けた発表の機会をさらに設ける必要があると思います。

4 次の国際親善大使へのメッセージ

この3年間の活動を通して、私の人生は大きく変わりました。世界には自分の知らない文化や考え方がたくさんあることを実感し、「もっと世界を知りたい」という気持ちが生まれました。この活動のおかげで、一歩踏み出す勇気を持つことができ、今ではさまざまなことにも立ち向かう力をもらっています。もちろん、活動の中では多くの困難や大きな壁にぶつかることもあると思います。しかし、それを乗り越えた経験は一生の宝物になります。私はこの活動を心からおすすめします。



「学びと友情」

国際親善大使



1 スマーナ生徒との一番の思い出

スマーナ生徒との最も印象深い思い出は、河川敷で行った花火です。花火を楽しみながら、2週間の交流を振り返り、別れの寂しさを分かち合い、かけがえのない時間を過ごしました。手持ち花火の美しさと日本での思い出をいつまでも忘れないでほしい、と願いました。

2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

日本とアメリカの文化や考え方の違いは、買い物をする際に最も強く感じました。座間生徒は皆でそれぞれの行きたい店を巡り、集団で「和」を大切にしながら買い物を楽しんでいました。一方、スマーナ生徒は、自分の行きたい店に、自分のタイミングで自由に買い物をする様子が印象的でした。

可愛い商品を見つけた際に、すぐに友達を呼んで教えたくなるという点は、両国の生徒共通で、ほっこりしました。

3 この事業を今後もより良く継続していくために

この事業を今後もより良く継続していくためには、今回のスポーツアクティビティのように、一般の方々にもイベントへの参加を呼びかけ、親善大使の活動を身近に感じてもらう機会を増やすことが重要だと思いました。それにより、異文化交流の重要性や楽しさをより多くの人に理解してもらい、事業の意義を広げることができるのではないのでしょうか。



4 次の国際親善大使へのメッセージ

文化の違いに戸惑ったり、英語でのコミュニケーションに難しさを感じたりしてしまうこともあるかもしれませんが、相手を思いやり、理解しようと努力する先にこそ、得られる喜びや達成感があります。決して諦めずに、その経験をぜひ味わってほしいと思います。心から応援しています！



「一瞬だった二年半」

国際親善大使



1 スマーナ生徒との一番の思い出
週末に行った東京観光が1番の思い出です。東京にある名所を全部回ったのではないかと思います。いろいろなところに行きました。それに伴い、彼も疲れていたと思いますが、嫌な顔をしないで感謝の言葉を述べてくれ、彼の優しさがよくわかりました。この東京観光で、大変なことも楽しいことも共有できて楽しかったです。

2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

共通点は、日本食が好きなどです。彼は日本食をととても楽しんでくれました。

違うところは、夏休みの長さです。アメリカだと夏休みが三か月ほどあるらしく、日本は一か月少しかることを伝えると、少ないととても驚いていました。

3 この事業を今後もより良く継続していくために

アメリカの生徒を、日本に対して興味がある生徒に絞るべきだと思います。彼は日本のことや日本食にととても興味があって助かりましたが、他の生徒の話の聞くと、日本に興味がない生徒もいたようなので、日本のことを知りたいと思う生徒に絞るべきかなと思いました。



4 次の国際親善大使へのメッセージ

この事業は、もちろん大変なことも沢山ありますが、それ以上に得られるものが沢山あると思います。言語の壁、考え方の違い、通じ合わないところが沢山あると思います。ですが、3年間という長いサイクルの中で日本の大使ともスマーナの生徒とも仲良くなることができ、これからの人生に活かせることが山のようにあります。ぜひ怖がらずに、沢山挑戦して全部自分のものにしてください。これから新しい大使の話を知ることができることを楽しみにしています。頑張ってください。



「かけがえのない受入期間」

国際親善大使

1 スマーナ生徒との一番の思い出

ペアの生徒が日本に滞在した13日間、私にとってこの期間の一瞬一瞬がとても大切であり、どのページを切り取っても一番の思い出であったと感じています。同時に、日本を外国の友達に紹介するという長年の夢が叶った期間でもありました。

約1年振りに再会し、久しぶりに顔を合わせたウェルカムレセプション。ペアの生徒と目が合った瞬間、懐かしさとやっと会えたという喜びにより胸がいっぱいになりました。そして、会えて嬉しいという言葉を交わした後、去年と変わらない優しい言葉をかけてくれた事が、とても印象に残っています。

週末の2日間は家族で過ごせる大切な時間だったので、ペアの生徒の思いも聞きつつ、最高の思い出となるように計画をしました。新たな場所に行ったり、新たな体験をする度に、凄く楽しかったと言ってくれたり、興奮している様子が表情や発言からよく伝わり、心から嬉しかったです。土曜日はチームラボ、日曜日は山中湖に訪れた時間が特に心に残っています。チームラボでは、その技術に家族皆で時間を忘れて没頭し、たくさん冒険をしました。山中湖では、ペアの生徒の夢だった富士山も近くで見ることができて、とても幸せそうに過ごしている姿が印象的でした。この貴重な2日間を良いものにすることが出来たのは、間違いなく家族のお陰なのでとても感謝しています。そして、この週末を通して皆の距離がぐんと近づいたと感じています。



2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

- スマーナ生徒は意思がはっきりしているなど感じた場面が多々あり、自分のやりたい事が明確で、皆が自分の軸を持っている印象を受けました。自分の意思を迷いなく伝えてくれるため物事が円滑に進む事が多く、コミュニケーションを図る大切な材料である事を学びました。
- 学校体験中、それぞれの学校の校則についての話題になり、日本の学校の厳しさに驚いていました。個々のアイデンティティや個性を尊重するアメリカでは考えられないような規則が日本には多く存在している事に気付かされました。アメリカでは、服装やスマートフォンに関する一定の規定にとどまっているそうです。
- キャンプ座間に訪れた際に、スマーナ生徒がほぼ全員質問をしていたり、熱心にお話を聞いたりする様子から「学ぶ姿勢」「もっと色々な事を知りたいと思う好奇心」「向上心」は両市生徒共に変わらない事を再認識できました。
- 日本語が話せなくても毎回店員さんに御礼を言っている姿から、感謝の気持ちを忘れない心は世界共通であると改めて感じました。



3 この事業を今後もより良く継続していくために

小学校低学年の頃から学校の授業で英会話に触れる機会をもっと増やしていただけたら、英語や異文化交流に興味を持ってくれる生徒が多くなり、国際親善大使になりたいと思う方が増えたり、この事業に注目したりしてもらえると幸いです。

また、ホームステイでなくても、国際親善大使のアメリカ訪問、また、スマーナ生徒の日本訪問の期間が少しでも延びたら相手の国の文化を理解するための時間が増えて、互いに良い効果が出てくると幸いです。

4 次の国際親善大使へのメッセージ

私が昨年スマーナを訪れた際には、多くの方が私を温かく迎え入れてくださりました。ですので、派遣時に強く感じた相手の国の人々の温かさ、家族の一員として過ごせた嬉しさをスマーナの生徒にも感じてもらえるように、常に自分が出来る最大限の力を出し、さまざまな工夫をしながら受入期間を過ごしていました。大変な事も多くある可能性がありますが、この活動を通して自分が達成したい目標やこの活動に対する自分の思いを明確にして準備して欲しいです。

学校や部活以外に国際親善大使のために時間を工面するのは大変だったけれど、以下のような貴重な経験ができたので、今後の国際親善大使にも是非経験して欲しいと思います。

- 準備、受入は最大限のおもてなしをしたいと思う心が育めました。
- かけがえのない仲間が出来ました。
- 互いに互いの事を知りたいと思っていけば、言語の壁を自然と越えることが出来ました。



「新たな出会い」

国際親善大使

1 スマーナ生徒との一番の思い出

1 番の思い出は、毎日の移動中の車での時間です。どこか特別な場所へ行ったという思い出ではありませんが、何気ない日々が、ペアの生徒が私たちの家族の一員となったようで、本当に楽しかったです。洋楽を一緒に熱唱したり、英語の発音を教えてもらったり、沢山の思い出があります。私は元々音楽が好きですが、多くの時間をペアの生徒と歌って過ごしたことで、音楽は国という垣根を超えて存在していることを強く感じました。何かを特別に話さなくても2人で笑顔になれたりして、心が通じ合っているようでした。

他にも、窓に映る日本ならではの景色を車の中から紹介したり、和製英語の本物の発音の仕方を家族で教わったり、まさに家族のように自然な会話を楽しみました。

2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

印象的だった文化の違いは、宗教についてです。ペアの生徒は、毎日のようにキリスト教についての勉強をしていました。ペアの生徒だけではなく、スマーナの生徒の多くがキリスト教を信仰していて、アメリカでは日常的に教会へ行き、そこでの友達も沢山いて、その友達と色々な活動をしていると話していました。日本でももちろん、様々な分野を学んでいる方がいると思いますが、より、アメリカではキリスト教の信仰が身近なのだと感じました。

また、共通点も沢山感じました。特に、アメリカ人はこういう人、日本人はこういう人というなんとなくの性格のイメージがあると思いますが、そうではないということです。明るい性格の人、シャイな性格の人、真面目な性格の人など、一人一人にそれぞれの性格があり、それはアメリカ人だから、日本人だから、ということは全く関係なく存在しているのだと実感しました。



3 この事業を今後もより良く継続していくために

私は、この事業を通して沢山の素敵な出会いをしました。そこで恵まれた「繋がり」を大切に、交流をし続けていきたいです。派遣や受入、研修を通して、多くの新たな学びを得ることができましたが、大使を卒業した後は、与えられる学びにとどまらず、自ら積極的に学びを深めていきたいと考えます。

また、派遣と受入でそれぞれペアとなった生徒とは「また会おう」と約束を交わしました。他にも多くの人たちと再会の約束をしました。これらの約束を果たし交流を続けていくことこそが、この事業を未来へ繋げる原動力になると考えます。

そして、新たな大使が生まれ、大使の新たな世界を広げる機会を作ること自体が、この事業の大きな意義になると思います。

4 次の国際親善大使へのメッセージ

大使の活動では、沢山の「出会い」が待っています。大使の仲間や活動を支えてくれる方々との出会い、受入や派遣では国を超えた出会いが待っています。

特に、大使のみんなと会うことができる研修は月に一度だけで、初めは年齢も様々な大使たちと仲を深めていくことができるのかと心のどこかで思っていました。ですが、沢山の喜びや、悩みすらもみんなに分ち合い、どんなこともみんなで乗り越えてきました。大使のみんなは私にとって大切な存在です。

これからの様々な出会いをまずは心のままに楽しみ、その縁を大切にしてほしいと思います。そして、その出会いは当たり前ではなく、沢山の人の協力に支えられているということを忘れないでほしいです。多くの人の協力や応援があることを知ると、不思議と挑戦する勇気や頑張る力が湧いてくるはずですよ。



沢山の人がこの事業のために尽力し、それに対する感謝の気持ちが芽生え、大使がもっと頑張れる、そんな素敵なサイクルがあればこの事業がますます温かく発展していくと思います。

大使として責任をもって取り組むということは前提ですが、それだけではなく、大使としての様々な経験を全力で取り組み、素直に楽しんでほしいです。



「勉強になった2週間」

国際親善大使

1 スマーナ生徒との一番の思い出

私の一番の思い出は、他の大使のペアと一緒に過ごした週末です。

昨年派遣の際にスマーナ生徒同士で仲が良かったのを見ていたので、そのペアの大使の子と事前に話し合っって渋谷に行きました。スマーナでは、自動車移動が主なため、電車に乗った経験があまりないと思ったので行きは普通列車で、帰りはロマンスカーを予約しました。渋谷ではポケモンセンターに行ったり、韓国プリを撮ったりと日本でしかできない経験を一緒にしました。そして、その後私の家でBBQをしました。

私は今年の派遣でペアとあまり仲良くなれず不安でしたが、とても喜んでくれた様子で私も幸せな気持ちになりました。



2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

○違い

- ・毎日シャワーを浴びないこと：受入が始まった日に「僕は一日おきにシャワーをあびる」と教えてくれたので、迷惑と感ずることはなかったですが、猛暑で汗もかいているはずなのに衝撃でした。
- ・家で靴を脱がないこと：アメリカは土足で家に上がるため、何度か靴のまま家に上がってしまうことがありました。また、理由はわからないのですが脱いだ靴を玄関の一番端の遠いところに置いていました。

○共通点

- ・食べているものが同じであったこと：私のペアはエジプトの人だったのですが、私の祖母が家庭菜園で育てている野菜のモロヘイヤは、エジプトでも古くから食べられている野菜でした。「モロヘイヤは家でよく食べるよ」と教えてくれて、食が似ていると感じました。

3 この事業を今後もより良く継続していくために

ペアは同性で組んだ方がやりやすいと思います。私は姉妹で女子校通いであるにも関わらず、男の子とペアになってしまいました。

ペアが発表されたとき、日本人の男の子でさえも話す機会がないのに、外国の男の子とコミュニケーションをとれるか不安しかありませんでした。異性がペアになっても上手くできる子もいるかもしれませんが、私はとても苦労しました。

今後、このプログラムを行う際は、同性同士でペアを組んだ方がもっとペア同士で仲を深めることが可能であると思います。

4 次の国際親善大使へのメッセージ

この活動は何かきっかけを与えてくれるものだと3年間活動してきた思い出です。

私はこの活動を始めるまで、勉強の中で英語が一番苦手で、英語を学ぶ必要性を感じていませんでした。しかし、派遣と受入が終わった今、私は英語を上手く話せなかったことにとても後悔し、英語をもっと話せるようになり、様々な国の人とコミュニケーションを取れるようになりたいと思っています。

実際に活動して、外国の方と話す機会や一緒に暮らすことなど貴重な経験をし、今まで一度も感じてこなかった感情が芽生えました。実際に経験をした人にしかわからない感情だと思います。



ただ、英語が完璧に話せなくてもコミュニケーションは取れます！私も派遣と受入で文法が間違っているけども単語で通じることを知れました。すべてが「英語力」ではないですが、英語がもっと話せれば距離を縮められるのに、と思う機会が多々ありました。この気づきも一つの学びになったと感じています。

そして、次に大使になる皆さんも自分がこの活動をして何を学び、何に気づくことができるのか考えながら楽しんでください！最高の思い出、経験ができます！！！！



「スマーナ市随行員との交流の思い出」

随行員ホスト

1 スマーナ市随行員との一番の思い出

朝晩の食事の際に、互いの文化や日常の話で盛り上がりました。
週末には名古屋へ出かけ、彼女の大好きな相撲観戦も叶い、笑顔が絶えない時間でした。

2 文化や考え方の違いや共通点について

感情表現が豊かで、喜びや驚きを素直に表現する姿が印象的でした。

日本語を学ぼうとする姿勢から、学ぶ意欲や好奇心の共通点も感じました。



3 この事業を今後もよりよく継続していくために

選考方法は語学力を重視していますが、英語が得意でない学生も含め、幅広く参加できる基準にして欲しいと感じました。

4 次の国際親善大使や随行員ホストファミリーへのメッセージ

選ばれた際は、まず家族全員で楽しむことを大切にしてください。

家族や親せき友人と協力し、200%のおもてなしを楽しんでほしいです。



「ようこそスマーナ市随行者」

随行者ホスト

1 スマーナ随行者との一番の思い出

大阪の息子一家と京都で合流し、旅行をしたことが一番の思い出となりました。

彼女のご家庭とは、2012年に彼女の息子さんを受け入れたときからのお付き合いで、彼女の息子さんとうちの息子は同い年で誕生日も数日違いです。彼女の息子さんとうちの息子・娘は、彼女と私にとっては3人とも実の子のような感覚です。

今回の彼女の来日のビッグイベントが、彼女と私の孫との対面でしたので、それはそれは彼女は大喜びしてくれて、ちょうどよちよち歩きの孫の様子を私と彼女の2人のおばあちゃん楽しんで見守りました。孫は、保育園で習った英語の手遊び歌を披露してくれて、それがまた彼女にとってはとてもいい思い出となったかと思いません。アメリカに帰って、彼女の勤め先のシニアセンターで、孫の歌った英語の手遊び歌をシニアセンターのお年寄りたちと一緒にやってみる、と言っていました。



2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

過去に何度か、我が家においていただいておりますが、彼女の好みは知っているつもりだったのですが、なんと今回、彼女がヨーグルトが嫌いだとわかりました。これまで、もしかしたら、遠慮してあまりはっきり言わなかったのかもしれないです。

今回は朝食の提供がメインで、夕食は外食してしまったりして、2回ほどしか自宅で食べませんでした。作る料理としては特に日本食を意識せずに提供しました。料理も軽いものばかりで、タッパーの残り物を多く食べてもらいました。何度かの交流の機会があったおかげで、お互いに気を遣わず、自然体で過ごせた日々でした。疲れたからと、2人で昼寝してしまったりもしました。

3 この事業を今後もより良く継続していくために

今回、大人の随行員の負担軽減をと思い、学校体験への随行員の参加人員を分散させていただき、確かに大人にとっては休息の時間が確保できたと思います。しかし、その後、スマーナの生徒たちの中で、少し気持ちが不安定になったり、受入家族との間に少し行き違いがあったりと、到着後数日間の問題が表面に出てきました。



スマーナの生徒たちは出国後から到着までは、楽しい気持ちが高まって、ある意味興奮状態で、空港から笑顔で各家庭に散っていきませんが、その後、文化の違い等に直面して少し不安定になるようです。また、受け入れる日本の生徒や家族にとっても、ちょうどその頃がミスマッチやすれ違いなどを感じる頃のようにです。

スマーナの随行員の皆さんはお疲れかもしれませんが、到着直後にスマーナと日本の生徒たちの様子を観察することも大切な役目なのだ、とつくづく思いました。もしかしたら、一日だけでも彼女が学校体験に行っていたら、不安定な心の生徒と直接話すことができたかもしれないと思いました。

4 次の国際親善大使や随行員ホストファミリーへメッセージ

今回、かつて受入や派遣を体験した若い皆さんやそのお母様たちから、座間市内で声をかけられることがありました。かつての生徒さんはすっかり成長されて活躍されていて、とても頼もしい感じでしたし、生徒さんのお母様もかつての交流のことをとても懐かしがっていらっしゃいました。長く続いたこの事業がたくさん若い生徒さんとそのご家族の良い思い出になっていて、その事業に少し関わったことでこのように懐かしく声をかけていただけることがとてもうれしかったです。

最終日に市役所でお見送りをしたときに、面識のないお母様から、この事業のことをいろいろ聞かれて、娘がその方に我が家での受入のことなどをお話しました。市民の方にもとても関心が高い事業だと思えました。

次の親善大使のみなさんやご家族には、「どうぞ、不安もあるかもしれませんが、やってみてください。お子さんにとって一生の思い出となりますよ」と、また次の随行員ホストファミリーの方には「随行員のみなさんは、お疲れかもしれないけど、滞在中の子供たちの様子を見ることも大事な役目です。滞在中は不安な子供たちと電話したり、ステイ先のママとお話したりする時間も大切に見守ってあげてください」とお伝えしたいです。

今回は、楽しい思い出をありがとうございました。



「2025年度スマーナ随員受入」

随員ホスト

1 スマーナ随員との一番の思い出

週末に皆で長野県安曇野に出かけた旅行が一番の思い出です。
大王わさび農場を見に行くととても良い思い出となりました。

2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

同じ人間なので考え方も同じだと思いました。

3 この事業を今後もより良く継続していくために

大いに市民にアピールし、市民全員が事業を理解していること、事業の認知度を上げることが大事だと思います。

4 次の国際親善大使や随員ホストファミリーへメッセージ

来日前のメールでのやり取りで、お互いの情報を交換し、普段からコミュニケーションを取っておくことが大切だと思いました。そうすると、来日する時にスムーズに受け入れられます。



「私の受け入れたスマーナ市随行員」

随行員ホスト

1 スマーナ随行員との一番の思い出

今回は箱根湯本の吉池旅館に一泊しました。夕食は旅館の中のステーキハウスにしました。目の前でコックが焼いてくれるタイプで、アルコールを燃やして炎を上げてびっくりさせてくれたりもします。彼女はこのタイプのステーキハウスは初めてだそうで、ワインも含め感動したと言っていました。



2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

これまででもですが、大きな違いは感じませんでした。彼女は体は大きいのですが、とても繊細ともいえる心遣いをする人です。

3 この事業を今後もより良く継続していくために

彼女は随行員として学生たちを見守ることによく留意していました。元々教員ですし、慣れていきますから安心です。今後を考えると、徐々に若手を育ててゆくことが大切だと思います。より多くの方が経験を共有していけるように出来ればと思います。

4 次の国際親善大使や随行員ホストファミリーへメッセージ

生徒が機会を十分に生かして楽しめるようサポートしてください。そのためにも、随行員がくつろげる時間と環境を用意していただければと思います。



「Special Time with chaperones」

随員ホスト

1 スマーナ随員との一番の思い出

何気ないわが家の日常に随員夫妻が溶け込んでいたことです。夕食後に、自然に私たちと日常会話をしていました。お互いの家族のこと、メジャーリーグのこと、農業のこと、趣味のこと、仕事のこと、会話は多岐に渡りました。忙しい朝の出発前でも、わが家の庭に自ら出て、畑やブルーベリーの木や山々の写真を撮っていました。普段、気にしたこともない自分の家からの夕焼けと山の写真を撮っている随員夫妻を見て、座間の景色がきれいだというのを再認識させてもらえました。夕食後は日々の疲れもありましたが、随員夫妻は部屋にすぐにこもることなく、リビングで私たちと過ごしてくれました。家族の一員として過ごしてくれたことが一番嬉しかったです。



2 文化や考え方の違い・共通点について感じたこと

初めて2名の随員を受入しましたが、4回目の受入ということもあり、文化や考え方の違いを感じることはありませんでした。わが家は幸いにも2人の息子も含めて言語で困ることはなかったので、息子たちは私よりも積極的に随員夫妻とコミュニケーションをとり楽しく過ごしていました。中2の長男は毎日随員夫妻のために朝食と夕食を作ってくれました。小4の次男は彼とポケモンカードの話題で連日盛り上がり、毎晩ポケモンカードと一緒に遊んでいました。

3 この事業を今後もより良く継続していくために

スマーナの人たちは日本語がほとんど分からないので、ある程度私たちが英語を話せないとスマーナの人たちとの滞在は楽しめないかと思います。こちらが一生懸命に伝え、真摯に対応していれば、自ずと向こうから日本語に興味をもってもらえるのではないかと思います。実際、私たちからではなく、随員夫妻からこれは日本語では何というの？と聞かれたり、自分から日本語を調べたりしていました。

この姉妹都市交流は市の事業ですので、積極的に市民へアピールしてほしいと思います。市役所玄関に横断幕を掲げたりして良いのでは？と思います。スマーナ訪問団が来日する前は、市の広報に「スマーナから中高生来日します！」と大々的に告知をし、インスタグラムのフォローもお願い

しますと言っていたのに、ほとんどインスタのアップもされず残念でした。SNS 戦略は大事かと思いますが。スマーナ側の広報担当者であった彼女は、毎晩、疲れていても眠くてもフェイスブックに座間滞在中の記事をアップすることを頑張っていましたので、座間市側にもお願いしたいです。

4 次の国際親善大使や随行員ホストファミリーへメッセージ

子どもも大人も国や言葉が違えば、お互い分かり合えない場面はあります。時に我慢しなくてはいけないこともあるかも知れません。アクシデントも付きものです。ですが、この事業で座間の生徒もスマーナの生徒も人生が変わる出会いがあるかも知れません。私も22年前に生徒としてこの姉妹都市事業に参加し、人生が変わったひとりです。ですので、生徒の皆さんには全力でこの事業に携わってほしいと思います。事業で関わった人たちとのひとつひとつのご縁と出会いを大切に、何十年と交流を続けてほしいです。




Smyrna

A special 2025 year
in Zama City



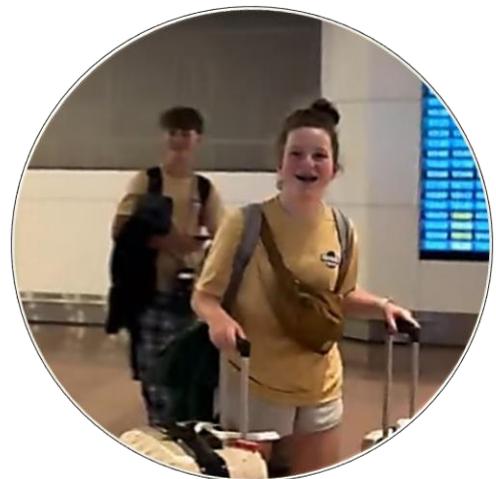
Zama 

7/20 (日) 羽田空港到着

もうすぐ日本に到着！
ダラス・フォートワース空港にて



Smyrna delegation
Welcome to Zama



7/21 (月・祝) ウェルカムレセプション

座間市姉妹都市中・高校生交流事業
WELCOME RECEPTION

座間ふれあい食堂 みんなのやまちゃん (ふれあい会館1階)

令和7年7月21日 11:00~13:00

スマーナ市訪問団入場

開会の言葉 木村 功 (座間市スマーナ交流委員会委員長)



スマーナ市訪問団とホストファミリーの対面

歓迎の挨拶 佐藤 弥斗 (座間市長)



スマーナ市長の言葉 Mary Ester Reed (映像)

スマーナ市訪問団長の挨拶 Marc Michaelson

(スマーナ市姉妹都市委員会副委員長)



～歓談～

スマーナ市生徒代表の言葉 Morgan Surratt



国際親善大使3期生代表の言葉 大串 彩月



閉会の言葉 下斗米 淑子 (座間市スマーナ交流委員会副委員長)



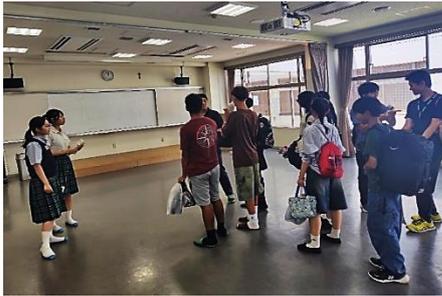


7/22 (火) スクラップブックング・学校体験①・スポーツアクティビティ

スクラップブックング



学校体験 | 日目



スポーツアクティビティ

ジェスチャー伝言ゲーム



人間知恵の輪



風船バレーボール



キャタピラレース



椅子取りゲーム



箱積みゲーム



7/23 (水) ラジオ体操・学校体験②・交流アクティビティ

ラジオ体操



学校体験 2 日目

ライオンキングの英語劇を発表し、演技や歌、ダンスを披露しました。





交流アクティビティ

どっち派ゲーム

質問に対し、二択の答えを選ぶことでお互いの価値観の違いを可視化するゲームです。
質問例) 好きなのは夏? それとも冬? / 行けるなら過去? それとも未来?



こんなときどうするゲーム

紙に書かれたシチュエーションを元に、それぞれ最善策を考え、共有するゲームです。
シチュエーション例) 旅先で現地の人に言葉が伝わらない、どうする?
自分が好きな人を親友も好きでした、どうする?



7/24 (木) 東京案内 国立科学博物館、浅草寺、東京スカイツリー

国立科学博物館



Lunch



浅草寺



東京スカイツリー



7/25 (金) キャンプ座間・買い物・書道・入谷歌舞伎

キャンプ座間



買い物



入谷歌舞伎



7/28 (月) 箱根小涌園ユネッサン



バスの中でホストファミリーと過ごした週末について話しました！

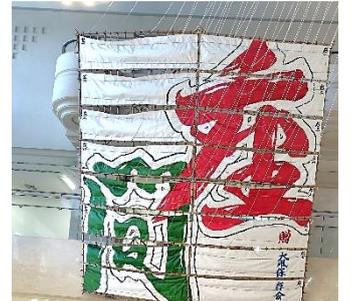


7/29 (火) 市役所見学・市内ツアー・消防署見学・和太鼓体験

座間市役所



市内ツアー



消防本部



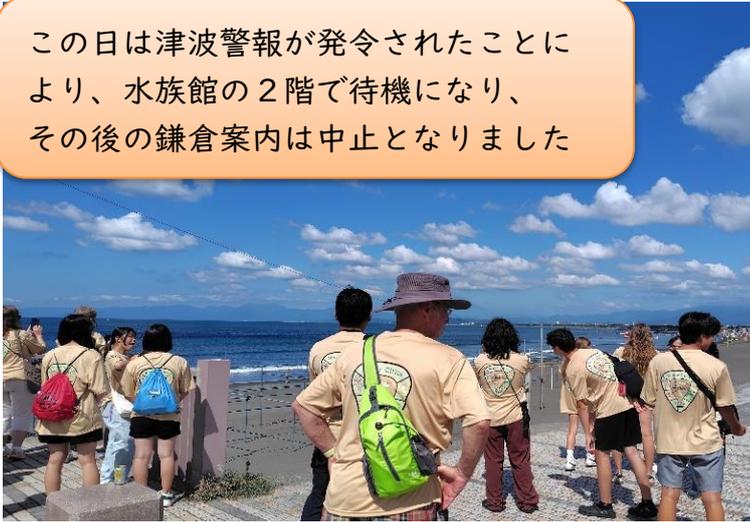


和太鼓体験



7/30 (水) 新江ノ島水族館・鎌倉案内

この日は津波警報が発令されたことにより、水族館の2階で待機になり、その後の鎌倉案内は中止となりました



7/31 (木) 華道・日産見学・着付け・夏祭り・花火

華道



Lunch

日産ヘリテージコレクション



着付け



鈴鹿明神社



花火



8/1 (金) フェアウェルパーティー

座間市姉妹都市中・高校生交流事業 FAREWELL PARTY

座間ふれあい食堂 みんなのやまちゃん (ふれあい会館1階)
令和7年8月1日 18:00~20:00

開会の言葉.....Marc Michaelson

(スマーナ市姉妹都市委員会副委員長)



挨拶佐藤 弥斗 (座間市長)

挨拶.....木村 功

(座間市スマーナ交流委員会委員長)



訪問団長挨拶.....Marc Michaelson

(スマーナ市姉妹都市委員会副委員長)



~~~~~歓談~~~~~

スマーナ市生徒代表の言葉.....Graison Murray

国際親善大使3期生代表の言葉.....柳澤 優里



動画放映 (国際親善大使3期生制作)

スマーナ市と座間市の記念品交換

スマーナ市長と座間市長の記念品交換

スマーナ市訪問団とホストファミリーの記念品交換

スマーナ市生徒のパフォーマンス

閉会の言葉.....Shelby Sallee

(スマーナ市姉妹都市委員会委員)





スマーナ生徒によるパフォーマンス



## 8/2 (土) 市役所での見送り



Friends Forever!







---

座間市 総合政策部 人権・男女共同参画課

住 所 〒252-8566  
座間市緑ヶ丘一丁目1番1号  
TEL 046-252-8035